



山田幸雄先生を偲んで

著者	白木 仁
雑誌名	大学体育研究
巻	42
ページ	1-2
発行年	2020-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00160045

山田幸雄先生を偲んで

体育センター長
白木 仁

山田幸雄先生は、昭和30年9月2日、福岡県に生まれ、昭和55年3月筑波大学体育専門学群を卒業し、同大学の大学院 体育研究科に入学、体育学修士の学位を取得しました。その後、昭和60年筑波大学助手体育科学系となり、昭和63年5月に筑波大学講師体育科学系に、平成12年からは助教授に、平成20年に博士（学術）の学位を取得されたのち、平成23年からは教授に昇進し、筑波大学の共通体育の発展、運営に携わってまいりました。平成27年度より4年間以上、体育センター長として体育センターの組織運営を担い、その後、令和元年7月20日に病に伏し帰らぬ人となりました。

筑波大学に奉職してからは、テニスの授業はもとより大学院体育、総合科目等の多岐にわたる授業を展開し、同時に大学体育の理念、テニスの戦術技術に関する多くの研究を行い、体育センター長や硬式テニス部部長としても大学における体育・スポーツの価値の向上及び発展に多大なる成果を上げ、学内外で高く評価されていました。

教育の面においては、共通体育「テニス」の授業を通しては、学生の体力を高めるだけでなく、スポーツにおける知識や技術を習得する上での身体運動の素晴らしさを伝え、生涯にわたってスポーツに親しむ素養を学生が身に付けていけるように授業を展開していました。大学院においても研究を邁進する中での体育活動の重要性を示し、大学院体育の充実を図るとともに、ご自身も、大学院授業「テニス」に積極的に取り組んでいました。学群、大学院の学生指導に関しても、テニスを中心に、ラケットバットスポーツのコーチング研究について大勢の学生を指導し、学士から博士の学位を取得した学生を輩出しています。

社会貢献として、地域住民への大学開放と交流を狙ったスポーツイベント（つくばマラソン、国際テニス大会）を開催しました。特に国際テニス大会においては実行委員長として大会の先頭に立ち、多くの地元のテニス愛好者に高いレベルのテニスを観戦する機会を提供し、筑波大学と地域住民との距離を縮められました。

課外活動では硬式テニス部監督を経て部長として、長年にわたり、学生の指導にあたり、国内外で活躍する数多くの優秀な学生テニス選手、プロテニス選手や指導者および研究者を輩出し、現在、日本のテニス界をリードしている人材の養成を行ってこられました。

研究面においては、テニス競技における戦術・技術・体力に関する研究をおこない、自身のプレイヤーとしての経験を踏まえ様々な観点から検討を加え、指導現場における有用な知見を示しました。またこれらの研究で得られた知見を、日本テニス協会発刊のテニス指導教本、テニス雑誌の連載などを通して発信しただけでなく、タイやミャンマーなどの

アジア諸国に出向き各地の大学と連携するとともにテニスの普及にも努められました。

学内運営においては、平成27年4月より筑波大学体育センター長として、4年間以上、体育センターの組織運営を担ってきました。その中で、学生の授業選択のウェブ化、二学期制の学期改変に関わる新カリキュラムの実行、大学院体育の充実、G30、LGBTに対する授業の多角化。施設に関しては、関彰グラウンドの開設、中央体育館の利用拡大、体育施設の大規模整備の実施などを行なわれました。さらに、体育局（AD）の設置、テニスの国際大会の誘致、鹿屋体育大学との共同専攻の立ち上げなど社会貢献を積極的に行われました。国際交流も盛んに行い、特に、アジアとの大学連携には大変努力され、学生交流も盛んとなりました。

以上のように、山田先生は大学体育・スポーツの発展に大きく寄与し、大学及び大学院における教育研究の充実に努め、多くの研究者、教育者、スポーツ指導者、スポーツ選手を育成するとともに、日本テニス界の競技力強化、発展に多大な貢献をなされ、その功績は誠に顕著であります。先生が享年六十三歳という若さでご逝去なされましたことは、筑波大学、体育センターとしましても痛恨の極みであり、大変残念に思います。我々は、先生の意思を継承し、大学体育、スポーツ界の発展に寄与していくことを肝に銘じて山田幸雄先生のご功績とご人徳を偲び、ご冥福を祈りたいと思います。

